

頼する。

演者と衣装……獅子児と囃子方を役者という。獅子は太鹿たいしかと後鹿あとしかの二匹の雄獅子と雌獅子の合わせて三匹である。かつては西山と手古岡の二地区の六、七歳から二〇歳までの長男に限ったが、昭和四十一年から堂小屋が西山地区に加入したため、以後三地区から各一名ずつを選出することになり、年令を下げて中学校三年までで交替することが多い。立替えには三名が一緒に交替し、後任は正月の休み以前に代議員会を開いて決定する。

狩衣に紺色の袴で、白足袋はだしとなる。腹太鼓はつけるがばちは持たない。獅子の前垂れには内藤公の定紋の下り藤が染め抜いてある。

囃子方は、笛二、三名、太鼓一名で、歌い手も一名つく。

楽器・採物・用具等……獅子頭は張り子で三匹とも大きさはほぼ同じく、高さ約二三センチメートル、幅約二二センチメートルあり、二匹の雄獅子にだけ長さ約一六センチメートルの八字形に傾いた二本の角がある。腹太鼓は小太鼓といい、直径一二センチメートル、胴長一一センチメートルの締太鼓である。

囃子方の太鼓も締太鼓で、直径二四センチメートル、胴長三七センチメートルある。現在には用いていない古いもの一個あり、これは直径二五センチメートル、胴長三〇センチメートルで、胴内に「天保三辰年七月吉日 御太鼓請合所 岩崎平新河町 半沢屋藤茂張之」とある。笛は六孔の篠笛である。

芸能の構成と内容……舞は「庭がかり」と「山がかり」の二種に大別され、獅子役の立替えごとに交互に教える。「庭がかり」は弓の舞がつくところから「弓がかり」ともいい、それぞれ次のような細目からなる。